

カントの哲学の盲点

karinomaki

カントの哲学

カントの哲学は、二元論です。感性と悟性（そして理性）によって組み立てられています。この哲学を図で表すという作業を私はずっとしていたのですが、ある事件によって、この図が、まるで爆弾が落ちた街のように崩れていくのを目の当たりにしました。

一人の美しい女性

その女性は、とても美しい人で、私に対する態度も女神さまのようでした。しかし、私はその女性と接するうちに、カントの図がめちゃくちゃになっていくことに、ある時気づいたのです。

どのようにめちゃくちゃになっていくか説明します。

まず、カントが徹底して批判して固めた、感性論（心で感じる経験）が、私の中で全く見えなくなりました。世界はとてもきれいに見えます。その女性は、少しだけ立場的に上にある私に対して徹底してへりくだった態度をとって下さり、申し訳ないほどでした。いつも買い物やドライブに誘って下さり、差し入れもたくさん下さいました。何より、私が精神を患い入院になったときは、泣き崩れるほど嘆いて下さったそうです。

退院した私にその女性は必要以上に近づき、あり得ないほどのたくさんのラインやお誘いがありました。

その女性をS子さんと呼びます。私は嬉しかったのです。最初は。だから言いました。ずっと一人ぼっちで生きてきましたのに、S子さんのおかげで孤独じゃなくなりました。Sさんはずっと前からの親友のようです。

崩壊

しかし、私のお金にならない仕事、カントの哲学の図はS子さんと接してどんどん泥まみれになります。感性論から始まり、悟性という、頭の中の構成で次第に成立していくカントの哲学を、私はその時は、「ソウルメイトの塔」と名付けていました。S子さんをソウルメイトだと私は思っていたと思います。しかし、どうがんばっても、思考が成り立たないのです。S子さんと知り合ってからです。

ついに、カントの塔はガラガラと崩れていきました。

入院

私は、S子さんがおかしいのだと思いました。それは、私の魂の叫びでした。裕福な私、お金をかせがずとも好きなことに打ち込んでいる私に、S子さんは、これ以上ないほどへりくだってくれました。しかし、私はそれが気持ち悪くてしかたないのです。

私達は対等なはずなのです！！カントの目指したのがソウルメイトたちによる、「目的の国」ならば、どうして、へりくだり、機嫌をとることで自分の立場を守り、引いては私を心からおろそかにできるのでしょうか。

私の怒りは、カントの怒りでした。カントは、女性の「保身」が大嫌いで、妻帯しなかった人なのです。

S子さんは結婚していました。独身で、カントの哲学に身を捧げている私に対する、必要以上のへりくだり、ほめちぎり、目に余るものでした。私は本音で人とつきあわない人が大嫌いなのです。

私は、S子さんを言葉と態度で痛めつけました。それは、私の精神科への入院と同時に起こりました。

先生

私は統合失調症です。幻聴があります。カントやモーツァルトの声や亡くなった父の声が聞こえます。

私には尊敬する主治医の先生がいます。私より少し年上の、同じ年代の先生ですが、偉い先生なので、私より十は年上に感じます。

先生こそ、本音で人と接する人です。私も何回先生に本気で怒られたかしれません。

カントの哲学は、S子さんに崩されました。しかし、私は思うのです。カントに先生の強さがあれば、S子さんという完全な偽りの仮面をかぶった人間にくずされない哲学をつくれていたのではないか……。

私は先生を好きになりました。先生の強さを近くで見続けた入院は、一生の思い出になりました。一方で、S子さんは、私の手紙やライン(傷つけたことを心から謝る手紙を暴露したS子さんに、私は残酷なラインを送りました。)を周囲に暴き、私が狂っていると言いつらす日々を送っていたことと思います。

どうでもいいことです。私には一生の宝物ができたのですから。

カント

カントは妻帯しませんでした。女性の醜さを知っていたからだと思います。

カントの感性論が崩れたわけは、この世界がきれいだと思う気持ちが少しだけ、欠落しているのです。恋をして初めて、その気持ちは訪れるから……。

S子さんのような、偽りの中で人と接する人にも、この世界の本当の美は見えません。カントは心で感じる感性論の中に、厳しさを見てはいたのですが、上辺だけが美しい女性の底（感性）がいかに汚いかまでは見えていなかったものと思われまます。この世でいちばん汚いものの中、カントの二元論は底から崩れてしまったのです。しかし、私を立て直して下さった先生は、底がグラグラで、病気持ちで、簡単に許せない人を攻撃する私の、もっと奥底の美を見抜いて下さいました。私も女性ですので、カントはそこにもふたをして私を妻にしてくれなかったような気がします。

しかし、カントは今頃天国から、毒から立ち直った私を見て、毒に打ち勝つ哲学をしている……そんな確信が私にはあります。